

令和8年1月26日

学校関係者評価（内部）の結果分析・次年度計画について

世田谷区立二子玉川小学校

今福 眞和

【学校関係者評価 自己（内部）評価の結果から考える次年度計画】

今年度の内部評価について以下の通り報告します。

〈自己評価の項目〉

- 1 校長の学校経営方針に基づき、「4つの約束」を意識しながら教育活動を行えたか。
- 2 学習指導について
 - ①教科担任制は自身の学習指導力向上の達成につながっているか
 - ②教科担任制は学年間の児童理解の役に立っているか
 - ③教科担任制は働き方改革につながっているか
 - ④教科担任制についての自由記述
 - ⑤授業力向上に向けて、自己研鑽を積むことができたか
- 3 生活指導について
 - ①学年間で児童や日々の出来事について情報共有をしっかりと行い、組織で対応するために自分の役割を果たせたか
 - ②生活指導上起り得る問題についてリスクマネジメントを意識して行動できたか
 - ③ほっとルームの運営に関して、自分自身も関わることができたか
 - ④生活指導に関する自由記述
- 4 学校行事に関する自由記述
- 5 保護者会について自由記述
- 6 個人面談について自由記述
- 7 遠足・社会科見学について自由記述
- 8 学校運営について
 - ①諸会議の設定・内容は適切だったか
 - ②改善した方がよいことは？
 - ③自身の働き方について振り返り、ワークライフバランスを保つことができたか
 - ④服務事故につながらないよう意識して教育活動を行うことができたか
 - ⑤面談、または日頃から、自分の考えていることを管理職に伝えることができていますか
 - ⑥学校運営について自由記述
- 9 全体を通しての自由記述

【自己評価を受けての来年度の方向性】

いずれの項目においても、8割以上が肯定的な意見だったが、以下のように改善点・再確認する点などが挙げられた。

①教科担任開始時期について現状でよいかどうか

→1年生は4月最終週から、2年生以上は4月2週目から行き、「自分のクラス」という意識ではなく、「みんなで学年を育てる」という意識を大切に、学年全体での児童理解に努める。

なお、教科担任制の特色を生かし、教科指導力向上を目指し教科部会での話し合いを充実させる。教科部会は月に1度程度行き、教科主任を中心に教材開発等、必要なOJTを行いながら進める。

②評価について

→通知表は年間2回作成することとし、児童の様子を直接伝えることができるよう面談を2回行う。直接面談することによって、児童の理解度等を保護者と共通認識をもつことができ、児童の自信を高められるような教育活動の継続が期待できる。

③ほっとルームの運営について

→全員参画のほっとルーム運営を行う。教科担任制になり増えた空き時間を利用し、教員がほっとルームの運営に参画できるシステムにする。子どもたちが安心して過ごせるように、教職員全員での児童理解に努める。

④サービス事故防止について

→教職員も安心して過ごすことでサービス事故防止につながると考える。そのために、学年会を大切に、引き続き教員同士がなんでも話せる環境作りに努める。学年会が毎日行えるよう、見通しをもった週予定を作成したり、教科担任制を生かして各クラスの報告をし合ったりと教職員が悩みを抱えずに仕事に取り組めるよう工夫する。